

診療認定医(I) 救急・集中治療医学コース

1.診療科(専門領域)

救急・集中治療コース

2.コースの概要

2年間の新臨床研修プログラムを終了した者で、救急・集中治療医学の研修を希望する者に対して行う。

3.取得資格

国立病院機構による診療認定医(II)資格

日本救急医学会認定医資格

日本集中治療医学会専門医資格(5年)

4.長期目標

救急・集中治療医学全般に及ぶ知識と技術の取得を目標とし、救急・集中治療医学に関する指導的ポジションの実現を支援する。

5.取得手技

救急初療学・外傷学・集中治療学・災害医療などの専門的知識と技能、各種の手技を習得させる。

また、研修途中で外科系・内科系各科の研修も組み入れるため、各科の初期から中期段階の手技の取得が可能である。従って、各種内視鏡検査やカテーテル挿入手技各種外科的検査・手術手技の取得が可能である。

麻酔科研修も可能であるため、全身麻酔を含む各種の麻酔手技習得も可能である。

6.研修期間

3年間

7.募集人数

3名

8.診療科の実績と経験目標症例数

救急外来診察:年間1000例 目標症例数(3年間):3000例

主要疾患 救命救急センター入院数(年間) 目標症例数(3年間)

内因性救急疾患 300 1000

外因性救急疾患 300 1000

9.診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 8 名、非常勤 1 名

診療科研修の指導にあたる医師 8 名

主として研修指導にあたる医師の氏名 古谷 良輔

診療科経験年数 20 年

10.コンセプト

救急・集中治療領域の専門的診療技術を習得する一方、他内科系・外科系診療科や、他病院とも積極的に交流し、研鑽を積む。

11.一般目標

- 1: 救急・集中治療領域に関する幅広い知識を習得する。
- 2: 関連診療科と連携して幅広い視野からの治療計画の立案が出来るようになる。
- 3: 全人的医療の実践を目指し、患者や他科医師、医師以外の医療従事者とのコミュニケーションが良好に行えるようになる。

12.関連領域の研修に関して

施設内での研修: 可能、積極的に推進

施設外との交流研修: 可能

研修領域の決定

本人の意向を研修責任者が聴取し本人と相談して決定する。

13.共通領域研修について

外科系・内科系各科、麻酔科等関連する科を本人と相談して決定する。

【救急・集中治療医学プログラム】

1.診療科(専門領域)

救急・集中治療医学コース

2.研修期間

3年間

3.募集人数

3名

4.短期目標

- ・ 様々な疾患や重症度の救急患者に対応し、リーダーとして診療の実践・指導ができることを目標とする。
- ・ 救急領域に関する Off the Job Training course の指導を幅広く行える。
- ・ 救急初療学・外傷学・集中治療学・災害医療などの専門的知識と技能、研究能力を習得する。
- ・ 習得すべき最低限の知識並びに手技は、日本救急医学会監修の「救急診療指針」並びに「Emergency Medicine(Tintinalli)」の内容となる。

(年次目標)

1年次:

- ・ 様々な疾患や重症度の救急患者の初期診療を行う態度、認知力(知識+思考過程)、技能を修得する。また、ICU や救急病棟にて集中治療・病棟管理を行う能力を養う。これらは一定期間の指導医監視下の診療と指導医への症例提示を義務づけ、常にフィードバックが可能な状態としておく。
- ・ 患者や他科医師、医師以外の医療従事者とのコミュニケーションが良好に行える。
- ・ 救急領域における種々の Off the job training に参加し、指導を担当する。
- ・ 総会レベルの学会発表を行う。能力に応じて論文を投稿する。

2 年次:

- ・ 指導下での救急患者の診療や手技の修得、ICU 及び病棟にて集中治療や病棟管理を行うが、病棟管理においては、サブチーフとなれるような能力を高める。
- ・ 後半には、外科系あるいは内科系関連科の研修を 3 から 6 ヶ月間行う。
- ・ 学会誌に論文を投稿する。

3 年次:

- ・ 外来と病棟の両診療現場を統括するチーフとしての能力を高める。
- ・ 臨床研究に必要な能力も習得する。また、日本救急医学会誌に論文を投稿する。能力に応じて、英語論文や国際医療協力にも挑戦する。
- ・ 2 年次とは異なる関連他科の研修を行う。

5.短期取得手技

救急初療学・外傷学・集中治療学・災害医療などの専門的知識と技能、各種の手技を習得させる。

また、研修途中で外科系・内科系各科の研修も組み入れるため、各科の初期から中期段階の手技の取得が可能である。従って、各種内視鏡検査やカテーテル挿入手技各種外科的検査・手術手技の取得が可能である。

麻酔科研修も可能であるため、全身麻酔を含む各種の麻酔手技習得も可能である。

6.診療科の実績と目標症例数

救急外来診察:年間1000件

目標症例数(3年間):3000例

主要疾患	救命救急センター入院数(年間)	目標症例数(3年間)
内因性救急疾患	300	1000
外因性救急疾患	300	1000

7.診療科の指導体制 診療科医師数

常勤 8名、非常勤 1名

診療科研修の指導にあたる医師 8名

主として研修指導にあたる医師の氏名 古谷 良輔

〃 診療科経験年数 20年

8.コンセプト

救急・集中治療領域の専門的診療技術を習得する一方、他内科系・外科系診療科や、他病院とも積極的に交流し、研鑽を積む。

9.共通領域研修について

外科系・内科系各科、麻酔科等関連する科を本人と相談して決定する。